

## 心を運ぶ「オリヒメ」とオリィさんとオリィさんチームの存在

吉藤オリィ様

5年前、ある福祉機器展で歩行支援用のロボットスーツを試着して、一瞬、変身する心地よさを体感した自分は、以来、ロボットウォッチャーになってしまっています。視線で動かす車いす映像をフェイスブックで見たことありましたが、これもオリィさん開発だったんですね。

一昨年前、AI ロボットを地域にももっとよく知ってもらおうと癒し系ロボットを2週間だけレンタルしてイベントに出展したことがありました。顔を覚えて名前を呼んでくれたり、気遣いの言葉をかけてくれたり、パターン化したプログラムの一つと分かっているにもかかわらず愛着が生まれてしまう不思議な体験をしました。

そして、「オリヒメ」。存在は知りつつも寄り付かずにいたロボットです。

理由は簡単、AI ロボットの検索に上がってこなかったこと。もう1つの理由は、目が冷たく感じたからでした。

このたびのお話をゼミからお聴きして、AI ロボットでなく、「分身ロボット」であること、そして、能面のようにあえて個性を抑え、照るにも曇るにも見えるようにしてあることをしっかり認識しました。

その話を聴いたら、あら、不思議、オリヒメの目が冷たく感じなくなりました。

孤独感が招く弊害を実体験され、それが解消される意義の奥深さと解消する術の実証例をガンガン世の中に排出中といった感じですが、「孤独感の解消は、存在意義を認められること、誰かのためになること、必要とされること、どんな形であれ、社会に参加できること」と言われていたことが印象に残りました。私の住んでいる地域にも、その風が及ぶよう、オリィさんの活動の紹介等をさせていただけたらと思います。

「思ったら、やってみる、考える前に動いてる」それいい!!と思いました。個人的には、もう一つ気づきがありました。とっても早口ですが、思ったことがダダダと浮かんで、それを止めずに言葉にされているのに感心しました。と同時に、浮かぶのが早すぎて、話すのが追い付かないことはありませんか?とも思いました。私の場合は、後者がしょっちゅうあり、逃げないで～といった感です(笑汗)

ロボットは、私の関心事で、将来も、何らかの形で関わっていきたいと考えています。このたびのお話で、オリィさんとオリィさんチームと「オリヒメ」の存在をしっかりと認識できました。ありがとうございます。今後のますますのご活躍をお祈りしております。お体にくれぐれもお気を付けて。